

学校評価考察

保護者アンケートの昨年度との比較から

- すべての項目で、肯定的な評価が多数を占めており、今年度の学校運営について一定の評価を得られありがたく感じています。
- 評価の傾向としては、おおむね昨年度と同様です。
- 1・3・4・8の項目の評価が高いことから、保護者は、多くの子どもは学校生活を良好に過ごしており、心身ともに健全に育ってきていると感じていることが分かります。
- 21・22の項目の評価が高いことから、保護者は、基本的な生活習慣を身に付けさせようと意識していることが分かります。ただ同時に、24の項目は低く、習慣化できているところまでは至っていないとも感じているようです。家庭における習慣化が向上するために学校として何ができるか、しっかり見直していきたいと思います。
- 9の項目の評価が向上しており、きまりを守って生活することの大切さが、次第に身に付いてきていると感じているようです。日頃の保護者からの声かけや学級指導の成果が出てきているのだと思います。ただ、23の項目の評価は低いので、次年度は学校運営協議会制度も始まることから、学校だけ、家庭だけでなく、地域全体で子どもたちを見守り育てていけるように、取り組む方法を考えていきたいと思います。
- 5・6・24の項目は、引き続き評価が低いです。コロナ禍の影響で、読書ボランティアに来ていただく朝読書の活動があまりとれなかったこともあり、読書をする習慣化が十分に行えなかったことが、この評価に影響があったものと思われます。「ノーゲーム・ノーテレビ」の啓発も続けていますが、いっそう保護者や児童に分かりやすい形での啓発活動を工夫していきたいと思います。本校児童は、国や県の学力調査等の結果を見ると、各学年とも全国や県、市の平均を上回っており学力は身に付いてきていると考えられます。しかし、「読むこと」や「漢字を書くこと」にやや弱みが見られます。読書や家庭学習の習慣を身に付けさせることで、基礎的な学力の定着が図れるものと思います。
- 18の項目の評価がさらに向上しています。コロナ禍の中、昨年度同様学校を訪れることが少なくなった保護者へできるだけ学校の様子を伝えようと、学校ホームページの更新を続けています。さらに今年度は、学校日より「帯江小ナウ」の発行も始めました。これらを、貴重な情報源として楽しんでいただけていることに、ありがたく感じています。
- 多くの項目で評価が微減しています。新型コロナウイルス感染症の影響が続いていることで、多くの学校行事が中止となったり、参観日も年度始めの1回しかできなかつたりと、保護者が学校の様子を直接見たり知ったりする機会が大変減りました。学校生活への不安感が増したことが、この評価へ影響しているのではないかと思います。